

岩手県から北海道へ

氏名 千葉育子

岩手県立一関清明支援 → 北海道札幌養護学校
(期間：平成28年4月1日～平成30年3月31日)

1 岩手県の特別支援教育

岩手県には特別支援学校が16校あり、平成21年度までに養護学校から特別支援学校へと名称が変更されている。(私立を除く)

幼稚園から高等学校までの全ての教育の場において特別な支援を必要とする子ども一人ひとりのニーズに応じた教育の実現を目指している。小・中学校では特別支援学級の設置数が増加しており、指導や支援の充実が求められている。そこで、特別支援学校の特別支援教育コーディネーター等が相談、助言を行う継続型訪問支援を行っている。高等学校では個別の配慮を必要とする生徒が進学してきており、支援員の配置や職員への研修などを行っている。

5年前の東日本大震災を経験した本県では各学校の教育活動を通して「いきる」「かかわる」「そなえる」を育てるために復興教育を推進している。

今年度は「希望郷いわて国体」が開催される。復興に向けて前進している岩手県での熱い闘いを期待したい。

参考：岩手県教育委員会 HP

2 岩手県立一関清明支援学校の概要

岩手県立一関清明支援学校は岩手県南に位置しており本校最大の特色は、2校舎3分教室に分かれており、4障がい(聴覚・病弱・肢体・知的)に対応している点である。また、幼稚部から重度重複の生徒では60代までと年齢の幅も広く、それぞれの教育の場において学習に取り組んでいる。校訓は「清く 明るく たくましく」、共生社会を実現する学校として学校、家庭、地域の持つ力を「信頼」「尊重」し共に「育ち合う」学校をめざしている。

一関清明支援学校 HP より一部抜粋

上記1でも述べたように、一関市でも5年前の震災の被害は大きかったため防災教育には力を入れて取り組んでいる。校内には在籍する幼児児童生徒の防災ずきんやヘルメットを常備するとともに備蓄品として飲料水や毛布、発電機なども備えている。また、幼児児童生徒、職員それぞれが3日間程度過ごすために必要な防災用品を準備している。いろいろな場面を想定した避難訓練や緊急時の保護者への引き渡し訓練等にも取り組んでいる。

3 ボランティアバンクの取り組み

岩手県では平成 19 年度からボランティア養成講座を実施し、学校と地域社会が一体となり共に生きる社会の実現を目指している。特別支援学校で実施するボランティア養成講座を受講しボランティア登録を行い、ボランティア希望校は条件にあった登録者と直接交渉を行い実施している。

前任校である一関清明支援学校では、年度当初に全ての校舎、学部ボランティアの希望を取り一覧を作成し登録者に配付して希望の確認を行っている。担当がまとめたものを基に各学部の担当者がボランティア希望者に直接連絡、参加の有無や当日の諸連絡等を行っている。

昨年度の具体的な実施状況は、遠足の際の児童の見守りや昼食の手伝い、運動会や文化祭などでの用具準備や記録係り、雪上教室での児童支援、高等部生活単元学習での生徒支援など様々である。実際にボランティアに参加していただいた方からは児童生徒と一緒に活動をし楽しかった、子どもたちが頑張っている姿を見ることができたなどの感想があげられた。毎年参加していただいている方も多くボランティアバンクの取り組みが定着してきたことが感じられる。しかし、地域によっては登録者数に偏りがあるなどの課題もあり、地域社会への啓発や養成講座へより多くの参加を募るための募集や内容の工夫などを行っていく必要があると考えられる。

参考：岩手県の HP「いわて特別支援教育ボランティアバンクについて」